

# すずしろ

～開拓・発展・完成～

2月 第10号

令和2年2月3日

開進第四中学校だより

校長 児島 泰彦

2020年は、2月3日が節分、2月4日が立春です。節分とは現在では豆まきをして鬼を払い、福を呼ぶ行事そのものを指しますが、元々は季節の区切りとされ、それを季節を分けるという意味で「節分」と呼んでいました。すなわち節分とは、春を迎え新しい一年の始まりの前に邪気を払うための行事であり、立春とは季節が冬から春になったその日を指すのです。人々が生活を営む上での一年の始まり「春」を良いスタートとしましょう。



## 影響力

副校長 松本 久

昨年、ラグビーのワールドカップ（W杯）が日本で開催され、代表チームがベスト8に入りました。ラグビー史に輝く大きな歴史を作り、世界の人々に「感動」や「勇気」を与えました。そして、2020年 今年、オリンピックパラリンピックがここ東京で開催されます。多くの「感動」や「勇気」を与えてくれるでしょう。そこで今回は、スポーツが人々に与えた「感動」や「勇気」について、一つ紹介したいと思います。

コートジボワール共和国（西アフリカ）は、1999年に軍と政府の対立が起こり、2002年に内戦が勃発しました。2005年、内戦の真只中、サッカーの代表選手 ディディエ・ドログバ選手は、翌年のドイツ杯の出場を決めた試合直後に、ロッカールームにTVカメラを呼び、次のようにメッセージを送ったのです。

「コートジボワールの国民の皆さん、今日ワールドカップ出場という共通の目標のもと、コートジボワールの様々な民族が共存してプレーできることが証明されました。歓喜によって人々は団結できます。

今ここでひざまずいてお願いします…どうかお願いします。豊かなコートジボワールで内戦が起こるのは許されません。武器を捨ててください。そして選挙をしましょう。それですべて良くなるはずです。」

このドログバ選手の呼びかけに多くの国民が心を動かされ、内戦が一時停止したのです。その後2007年、いつも南部で開催されていたコートジボワール代表の試合を、反政府組織が占領していた北部で行うことを大統領に直談判しました。この試合がメディアに注目され、政府側と反政府側の和平に向けたきっかけとなったのです。

人は物事に集中して夢中に取り組みと新たな自己を発見し、多くの事を学び吸収していきます。それがその後の生き方や取り組み方、人との接し方などを変えていきます。そして、そういう取り組みを見て、人々の心は動かされます。スポーツを見て感動するのは、決して勝つからだけではありません。勝つことの向こうに、その人のひたむきさや必死さやそこに至るまでの努力を感じるからです。「スポーツや芸術などを通して、何を学んだか」を大切に、自分を成長させていきましょう。

## 【2年スキー移動教室 ～ 雪を溶かすほど熱く駆け抜けたスキー教室 ～】

2学年スキー教室担当

1月23日（金）から三泊四日、2年生はスキー教室に行ってきました。初日はあいにくの雨。バスの車内で窓の外を心配しながらの道中でした。ベルデ武石に到着しても雨。ブランシュたかやまスキー場に到着しても雨！なんと雪ではなく雨の中での初日の実習となりました。それだけ今年はずっと暖かいようです。2日目は晴天で暖かく、撮影をする教員はグローブなしでも滑れるほどでした。3日目は早朝に雪が降り、木々が雪をまとい、やっとスキー場らしい景色となりました。日中は晴れ、山頂や高台からの日の光に雪がキラキラ舞う景色に、生徒たちも感銘を受けていました。



スキー実習はどの班も3日間で目を見張るほどの成長を見せていました。初めてスキーをする人の中には、途中で「できない」と暗い顔をしていた人もいましたが、最終日の実習を終える時にはみんなが「滑れた！」と実感をして自信をもった表情を見せていました。

宿舎での生活では、1日目にできなかったことを2日目には修正し、3日目はさらによくになり、と生徒達同士で声をかけあってメリハリのある生活ができていました。「スキーは一生懸命がんばって、レクは全力で楽しんで、行動は素早く、集合は5分前」を室長や実行委員を中心によくやっていました。参加した全員が一度も欠けることなくすべての食事を全員でとることができ、全員で元気に東京に帰って来られたことが何よりもよかったことだと思います。

### ～ 生徒実行委員長の作文より ～

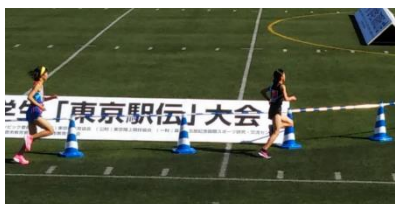
私はこのスキー教室を通して、たくさんのお話を学びました。スキーの技術はもちろん、生活面などでも大きく成長することができました。（中略）3日目はスキー最終日でした。1、2日目の疲労や筋肉痛も大きかったけれど、スキーをしているとそれも忘れてしまうくらい楽しかったです。私たちの班は初めて頂上まで行きました。頂上からの景色はとてきれいで心から感動しました。それと同時に、頂上まで来られたことへの驚きでいっぱいになりました。滑る前や最初の頃は楽しさよりも怖さの方が勝っていたけれどここまで楽しく滑れるようになったのはインストラクターさんのおかげであるということに改めて実感しました。頂上から滑るときは、この3日間の集大成となるように、そしてインストラクターさんへの感謝の気持ちが伝わるように一生懸命滑りました。頂上から麓まで、班のメンバーが誰も転ぶことなく滑って「すごい！」と言ってくれた時はすごく嬉しかったです。



生活面でも、室長として、実行委員長として、5分前行動を心がけたり声掛けをしたりと、責任をもって行動することができました。先生に注意される場面も何度かあったけれど、互いに協力し合い改善していったことが良かったと思います。今回のスローガンである「雪を溶かせるくらいの熱い気持ち」をもち続け、自身の目標である「感謝の気持ちを忘れない」ことを心がけ、最高のスキー教室にすることができました。今回学んだことを今後に生かしていきたいです。

## 【第11回中学生東京駅伝大会】

2月2日（日）東京駅伝大会が調布市にあるアミノバイタルフィールドと都立武蔵野の森公園で開催されました。都内の50地区の区市町村を代表する中学生が出場する「東京駅伝」大会です。今年で11回目を数え、男子は42.195kmを17名で、女子は30kmを16名でタスキをつなぎます。



本校から3名の男子と3名の女子が選抜され、男子は7区・16区・17区に、女子は11区・16区に代表として激走しました。結果は、男子12位・女子6位入賞・総合7位でした。大変多くの保護者の方々に応援していただきました。ありがとうございました。